

一般質問



はじめ 肇
たかはし 肇
高橋 (白杵市)

一年五カ月ぶりの
質問で訴えたこと

今回、一年五カ月ぶりの一般質問となりました。大きく以下の五項目について、県の見解を質しました。

- 一 少子化対策について
- 二 日出生台実弾射撃訓練について
- 三 医療現場の課題について
- 四 横断歩道での運転マナーの向上について
- 五 学校現場の課題について

(1)少子化対策について、未婚者や晩婚者への支援策と多子世帯への支援策について質しました。知事は、現在県として取り組んでいる出会いサポートや不妊治療への費用の上乗せ、保育料の助成制度等の支援策を紹介し、引き続き結婚、妊娠・出産から子育てまでの切れ目ない支援に取り組みと答弁しました。

(2)日出生台実弾射撃訓練について、日米合同委員会の話し合いと今後の対応について質しました。知事は、「日米合同委員会での協議が整い次第、説明する」と返答があったと明かした上で、将来にわたる縮小・廃止が県の基本スタンスと答弁。引き続き確認等の順守を強く求めていきたいと述べました。

(3)医療については、特に白血病の現状と骨髄ドナー登録が少ないうことを取り上げ、今後の取り組みについて質問しました。福祉保健部長は、啓発用リーフレットの配布やSNS等の活用、企業への支援制度も創設し、関係者の連携強化を図っているということでした。

また、医療従事者の確保や労働環境の整備については、健康で安心して働ける環境整備は重要と認識し、ICTを活用した業務効率化の支援や特定医療行為を行えるナース・プラクティショナーの養成を推進していることやAI問診システム導入等の先進事例の紹介に取り組んでいるということでした。

(4)信号機のない横断歩道での車の一時停止について、大分県が九州・沖縄で最も低い現状を指摘し、横断歩道は交通弱者の歩行者が優先とのルールを徹底す

ることの必要性について見解を求めました。警察本部長は、街頭における交通指導取り締まりや歩行者への正しい横断指導の強化、「マナーアップ」の広報啓発や交通安全教育、横断歩道の高輝度化などに努めると述べました。

(5)学校現場の課題の一つとして、コロナ禍における今後の修学旅行について質問しました。日田市中津江の鯛生金山が中学校の修学旅行先として誘致を始めたことを紹介し支援を求めました。観光局長は、可能な限り県内実施等も検討するよう県立・私立・市町村教委に依頼したところ、小220校、中39校が県内で実施し好評だったと報告。引き続き情報を提供し、修学旅行の県内実施を働きかけていくと答弁しました。

教職員の広域人事の弊害について、少子化対策と絡め、見直しの時期ではないかと教育長に迫りました。教育長は、複数勤務地を経験させることは、キャリア形成において大事な取り組みとメリットを強調。その上で、結婚等個人的事情については可能な限り配慮していると答弁。今後とも、個別事情に配慮しながら、広域人事をあくまで進めたいと述べました。

しかし、多くの教職員が「それでも、この人事ルールは早くなくしてほしい」と声をあげています。ルールは人が作ったもので、お金も人もかからず、やる気があればすぐ見直せるもの。そうしなければ、少子化も今後の教職員の確保も解決しないことを最後に強く訴えました。

一般質問



ひでゆき 秀行
こじま 小嶋 (大分市)

県には追い風

一般質問の機会は、ほぼ年に一度です。今回、第4回定例会(11月議会)で機会を得ました。主要な質問内容は以下のとおりです。

はじめに、エネルギー政策の推進です。

『政府の2050年に温室効果ガス実質ゼロを目指す方針が、大分県のエネルギービジョンにどのような影響を与えるか』との質問に対し広瀬知事は、『既に再エネ自給率全国一位を達成しており、その上で、さらなる導入推進をビジョンの目標としている大分県にとつては、追い風以外の何物でもなく、(県)エネ

ルギービジョンの目標である2025年に向けて着実に取り組む』と応えました。再質問の際、エコエネルギーの取り組みに関し、水素利用の拡大にむけ、児童・生徒が水素に関する理解促進できるよう展示室の設置について提案しました。

次に、薬物乱用防止について、『全国的には、5年前と比較し大幅に検挙件数が増加しているが、県の現状と乱用防止の取り組みはどうか』との質問に『本年10月末での薬物事犯の検挙人員は88人(前年同月比24人増加)。内、大麻の検挙人員は人(前年同月比8人増加)。4月と6月には大量栽培事案も相次いで発生している。未然防止については、大麻使用に対する若者の意識の変化が懸念されることから薬物の恐ろしさを知ってもらう為、県警等と連携し薬物乱用防止教室や「ダメ！ゼッタイ」のヤング街頭キャンペーンを実施している。437名の薬物乱用指導員を委嘱して取り組みを進めている。』と答弁。

3点目に、防災インフラ整備について質問しました。『治水対策では、天ヶ瀬温泉や国道210号が被災した玖珠川などで改良復旧による再度災害防止に加え、流域の自治体や国、企業、住民などあらゆる関係者で、治水機能を分担する流域治